

「横浜におけるパイロット事業について
～子どもの力を育む居場所づくりに向けた取り組み～」

塚本 一郎 氏

(明治大学経営学部教授、(株)公共経営・社会戦略研究所代表取締役)

明治大学の塚本です。よろしくお願ひします。15分と限られた時間ですけれども、きょうは、濱田理事長と2人で分担してお話しますので、私は7、8分ぐらいお話をしたいと思っております。プレゼン資料は英語ですが、日本語で話していきたいと思ひます。

日本では、SIB に対して非常に関心が高まっておりますが、本日は、日本における SIB の台頭と、横浜のプロジェクト、パイロット事業の簡単なフレームワーク等についてお話をしたいと思ひます。

• Overview : Social Impact Bonds in Japan

OVERVIEW : SOCIAL IMPACT BONDS IN JAPAN(1)

- Since 2014, interest in social impact bonds and impact investing has been radically increasing in Japan.
- Actually, since April 2015, some local governments and national government departments such as Ministry of Economy, Trade and Industry(METI) have been engaged in pilot experiment projects (Not Bonds) in collaboration with private nonprofit players. The areas of interventions include preventive health care , work integration (NEET), adoption.

➡Experiments: Most cases are Just Foundation Granting or Government Contracting Pilot Projects) except Yokohama Pilot Project

- Yokosuka City-adoption (April 2015-March 2016),
- Fukuoka City and other municipalities –Preventive health care (METI and Kumon)(June 2015-September 2016),
- Amagasaki City-work integration(July 2015-June 2016),
- Yokohama City –Learning and social skills support for children with difficulties in economic conditions and social relations in Families and schools (October 2016--).

2

改めてお話しする必要もないと思ひますが、日本では 2014 年ぐらいから SIB に対する関心が高まっています。2015 年以降は、実際にパイロット事業がつくられてきています。

そこには、日本財団などの貢献もありますし、政府でも、例えば経済産業省などがリードして幾つかのパイロット事業がすでに行われており、結果が出たりもしています。もっと

も、それらはあくまでもパイロット事業であって、SIB そのものではないのですが、例えば、横須賀市とか、尼崎市とか、いろいろなところで実証実験がなされています。

これらのほとんどがインパクト評価は入っていますが、リターンを得るようなボンドのモデルはまだないということと、財団の補助金、グランディングモデルだということが特徴ではないかと思っています。

そんな次第ですので、本格的な SIB は、まだ日本では始まってないというのが現状だと思います。そういう中でも、特にインパクト評価ということに日本では関心が高まっていると思います。

先ほどいろいろとお話を伺って、学ぶものがたくさんありましたが、最初にお話をしておきたいことは、評価が大事だということです。評価というのは、契約の一部ですから、評価がいい加減だということは、契約自体が不完全だということなので、どれだけ厳格にするかという問題はあるのですが、インパクト評価はしっかりしなければいけないし、先ほどお話があったように、データ収集もしっかりしなければいけないと思います。

それから、パートナーシップというのも非常に重要です。我々もいま横浜でパイロット事業をやっていますが、関係をつくっていくのは非常に難しいと思います。子どもの学習支援の場合ですと、学校との関係、地域団体との関係など、いろんな関係づくりが必要になってきます。もちろん SIB の投資家、実施団体、中間支援組織、それから横浜市との間の関係づくりなどとのパートナーシップをつくることも非常に重要です。それには、時間がかかる。取引コストがかかるわけです。

それから、パフォーマンスを上げていくためのパフォーマンス・マネジメントが重要です。幾つかの集団が関わってきますので、それをどうしていくかということが重要なポイントになると思います。

OVERVIEW: SOCIAL IMPACT BONDS IN JAPAN(2)

- Cabinet Office has been playing leading role in fostering *social impact* measurement (evaluation) culture in collaboration with nonprofit organizations, intermediary organizations, private companies, consulting firms and academics.
- However, there has been no standardized impact measurement methods and guidance about *Payment by Results (PbR)* or *Outcome based Commissioning*.

いまのところ日本では、インパクト評価に対する注目も高まっていて、特に内閣府は力を入れて、インパクト評価のカルチャーをつくっていきこうとされます。しかし、日本ではまだ

インパクト評価についても、極端に言えば、インパクト評価イコール SRI (Social return investment) みたいな誤解もありますし、標準化された手法がまだ確立されていないという現状があります。

それから、PbR (成果連動型契約) についても関心が高まっていますが、PbR に関しての標準的なガイダンスがまだありませんし、理解があるわけでもない。政府の人たちも、必ずしも PbR の意義について理解しているわけではないというのが現状だと思います。

• Fact findings from The early stage pilots

FACT FINDINGS FROM THE EARLY STAGE PILOTS: MORE FOCUS ON INVESTING AND REDUCTION OF GOVERNMENT COST , LESS FOCUS ON PARTNERSHIPS , CONTRACTS AND PERFORMANCE MANAGEMENT

More Focus on Social Finance , Impact Investing

Less focus on Partnerships (Collective Impact) , Performance based Contracts(Commissioning) and Social Enterprises

Extravagant Advertisement about Fiscal Cost Cutting Impact (Overestimated social benefit) -No Evidence!

Rather simple outcome metrics (ex. just long-term outcomes, neglected short-term and intermediate outcomes)

Poor Understanding of Performance Management and Collective Impact

上に挙げたのが、これは私の個人的な意見ですけれども、いままでの日本の SIB の現状を振り返ってみるとどういことが言えるかです。

最初は、投資ということに注目が集まったと思います。その一方で、パートナーシップであるとか、パフォーマンスベースのコントラクティングであるということについての関心は、それほど強くなかったと思います。だから、最初の段階では、財政コストの削減が過大に強調されてきたという経緯があると思います。

もう1つは、これは仕方がないことかもしれませんが、アウトカムメトリックスがシンプルすぎる、それが問題ではないでしょうか。これからそれはどんどん改善されていくと思うのですが、そういうさまざまな課題があったと思います。

• Learning Lessons from Early Experiments in Japan

LEARNING LESSONS FROM EARLY EXPERIMENTS IN JAPAN(1)

- Need to show clear logic model and evidence for social and government benefits as results of SIB schemes
 - ➡ Need to develop and standardize impact measurements
 - ➡ Need to consider demarcations with existing public services

- Need to consider transaction cost
 - Because a SIB scheme has many different stakeholders such as Investors, government commissioners, service providers and intermediaries.

海外のいろいろな経験や、日本の現状を考えると、クリアなロジックモデルを我々がつくっていく必要があるだろうということと、社会的なベネフィットや、政府におけるベネフィットを生み出すことへのエビデンスを示していくこと、明確にエビデンスをデータで示していくことが必要ではないかと思っています。

また、インパクト評価という手法について、できるだけ標準化していくこと、これはイギリスでもあまり成功してないと思うのですが、そのための努力が必要ではないかと思っています。

さらに、実際動かしてやってみると、既存事業とかなり重複する部分が出てくるわけです。そういったデマケーションというか、既存事業との重複をどう避けていくかという問題を考えていく必要があると思います。

そして、先ほどからいろいろとお話があったように、やはり取引コストが非常にかかるということは考えなければいけません。SIB というスキームにはさまざまなステークホルダーが参加するので、そういう取引コストがかかることについて、我々はもっと理解をする必要があるのではないかと思っています。

LEARNING LESSONS FROM EARLY EXPERIMENTS IN JAPAN (2)

- Need to create new contracting culture (Social Impact oriented contracting) in National and local governments
- Need to develop competence for program management and performance management
- Need Government –Local Governments collaborative supports for fostering SIB market
- Need to develop new public private partnerships in which partners can share value, benefits and risk.

• What does Yokohama Pilot Project differ from other experiments in Japan?

WHAT DOES YOKOHAMA PILOT PROJECT DIFFER FROM OTHER EXPERIMENTS IN JAPAN?

- The first SIB pilot project in Japan which is based at “genuine” public private partnership
 - ➡ Each partner is independent. It means that high transaction cost is generated .
- The first SIB pilot project in Japan which a private commercial bank is involved in
- The first SIB pilot project in the field of children learning support in Japan
- Most distinct impact measurement oriented project with involving academic institutions in Japan

話が長くなるので飛ばしていきますが、横浜市の SIB の特徴について少しお話をしたいと思います。

横浜市では、去年の 10 月から始まったばかりです。特徴的なのは、パートナーシップを

ベースにしていることです。それはある意味本格的なパートナーシップだと思うのですが、横浜市と、あとでお話しされる実施団体の、社会福祉法人たすけあいゆいさん、それから中間支援組織、それから投資家、投資家といっても、今回はゴールドマンサックスジャパンの寄付ですが、との間の本格的なパートナーシップです。だから、ある意味、パートナーはみんな自立をしているので、非常に取引コストがかかります。我々もしょっちゅう会議をやり、必要に応じて実務者レベルの会議、運営会議などを行っています。“日本で始めて”という表現は好きではないのですけれども、投資銀行が参加したスキームであるということです。ゴールドマンサックスが参加したスキームであるということです。

分野的に見ても、子どもの学習支援。特に経済的・社会的な環境において問題を抱えた子どもたちに対する学習支援という分野では、日本では最初のケースだと思います。

最後に、特徴的なところは、インパクト評価を重視しているということです。なので、評価によっては、あまりいい結果は出ないかもしれませんが、それは正直にレポートイングするべきではないかとは思っています。そういった特徴があります。

・ Outline of Yokohama Social Impact Measurement Pilot Project

- **Purpose:** Providing comprehensive support for children who suffer from economic and social disadvantages based at a community Salon Osan in South Ward, Yokohama City,
- Measuring outcomes (changes) in relation to learning and social skills according to the outcome metrics and monetizing social value,
- Developing social impact measurement model which can be adapted to future SIB schemes as a standard model.

- **Duration of the pilot project :** October 2016 to March 2018

- **Site for the operation:** Community Salon Osan (South ward , Yokohama City)

- **Treatment group:** Primary and junior high school students who suffer from economic or disadvantage

- **Activities (interventions):** 1. Learning support (Teaching): three days per week,
2. providing opportunities for socializing at Osan including Saturday recreation,
3. providing meals after school

これは横浜市の限られた地区で実施をしています。横浜市南区の、それも非常に狭い学区でやっております。

目的としては、困難を抱えた子どもたちに対して、居場所の支援、学習支援、生活支援をしていくということであり、期間としては、去年 10 月から始まったのですが、1 年半

のプロジェクトを予定しています。場所は、南区のコミュニティサロン「おさん」というところ。そこはもともとお寿司屋さんだったところを改装してコミュニティスペースにして、そこを拠点として子どもに食事を提供したり、子どもの居場所にしたり、夕方になると学習支援を実施したりしています。

ターゲットは誰か、これはちょっと難しいのですが、基本的には小学生・中学生です。学校からどれだけ協力が得られるかということですが、小学校は比較的協力的です。中学校が協力的でないというわけではありませんが、主に小学生をターゲットにしています。

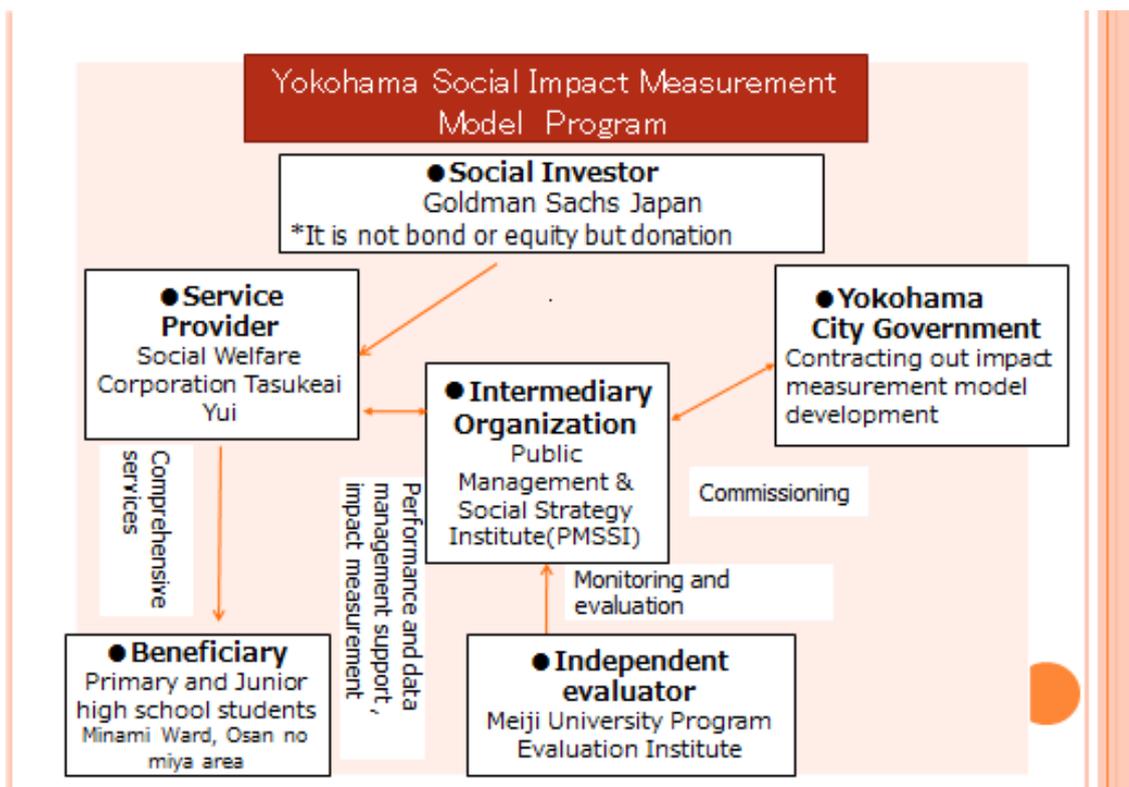
内容としては、学習支援がメインです。大学生のボランティアとか、社会人が無料で教える。次に、居場所づくりです。子どもが立ち寄って食事をしたり、大人と話をしたり、子ども同士で話をしたり、そういう居場所を提供している。家庭や学校と違うサードスペースと言うのですか、第三の場所を提供する。それから、食事を提供して生活改善などをしていく。そういった主に3つの分野で包括的なサービスを提供しているということです。

• **Outline of Yokohama Social Impact Measurement Pilot Project**

OUTLINE OF YOKOHAMA SOCIAL IMPACT MEASUREMENT PILOT PROJECT

| 2016 | 2017 | March 2018 to |
|--|--|------------------|
| <ul style="list-style-type: none"> •After competitive tendering (Yokohama City Government announced) , The project was launched in October 2016 •The partnership (consortium) is composed of Social Welfare Corporation Tasukeai Yui, Goldman Sachs and Public Management & Social Strategy Institute(PMSSI) | <ul style="list-style-type: none"> •April 2017 to March 2018: The project will be continued. Monitoring and intermediate evaluation will have been conducted. •January to March 2018: Final evaluation including a an independent third party evaluation will be conducted and outcome metrics, payment model and structure model will be suggested. | <p>Undecided</p> |

さっき言いましたように1年半。2016年10月から始まって、関係づくりとかいろいろ時間もかかりまして、アウトカムの計測は、今年の4月からやっていこうということで考えています。実際やってみて、やはり時間は結構かかるなということを感じているところです。



・ Yokohama Social Impact Measurement Model Program

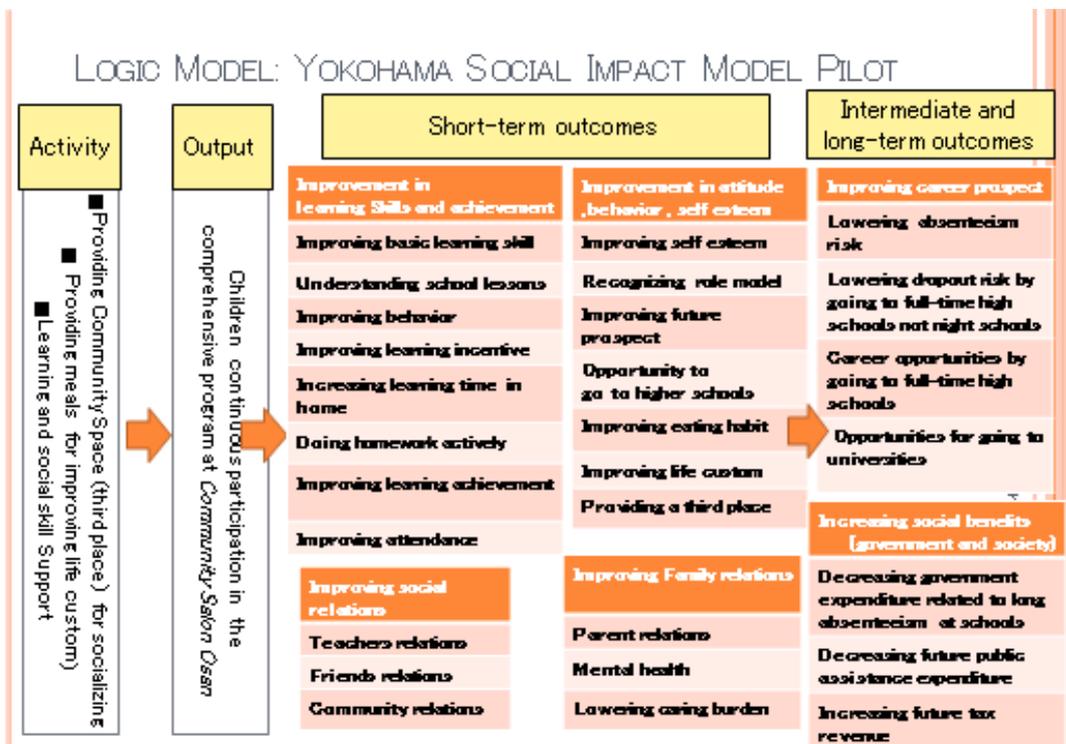
これはスキームの図です。ストラクチャーはこういう形になっていまして、寄付はゴールドマンサックスさんが提供しています。サービスプロバイダーとしては、社会福祉法人たすけあいゆいさんがサービスを提供しています。受益者は、主に困難を抱えている小学生・中学生。中間支援組織は、明治大学を拠点にしている会社がやっています。今回のモデルに対して評価計画をつくってくれと委託をしたのが横浜市です。

この特徴は、第三者評価機関を入れていることです。これは明治大学のプログラム評価で著明な先生がつくった研究所ですが、そういったインディペンデント、第三者評価機関を入れてやっているところです。

・ Logic Model: Yokohama Social Impact Model Pilot

これはロジックモデルです。さっき言ったようなアクティビティを行なって、それに継続的に子どもが参加するというのがアウトプットですが、それによるアウトカムとしては、特に学習に関わるアウトカム、あるいは、自尊感情が改善されるなどを含めた意識や行動に関するアウトカムや、家庭関係の改善などを含めたソーシャルスキルに関わるようなアウトカム、あるいは将来のキャリアです。例えば、大学生のボランティアが参加することのメリットで、私もこういう大学生のお兄ちゃん・お姉ちゃんみたいになりたい、私も大学に行きたいとか、そういう変化もあるわけです。将来のキャリアに対する見通しだとか、キャリア選択に対する影響というの、1つのアウトカムだろうと考えています。

そういったいくつかのアウトカム指標を設定して、これをどう費用化を設定するかは難しいのですが、できるだけ貨幣換算していきたいと考えています。



• The experiment in Yokohama just starting

THE EXPERIMENT IN YOKOHAMA JUST STARTING
 WE ARE KEEN TO LEARN LESSONS AND KNOWLEDGE FROM SIBS IN THE UK, AUSTRALIA AND THE US. WE ALSO HOPE TO LEARN EACH OTHER AND SHARE STRATEGIC VIEW AND KNOWLEDGE.



Primary school students enjoyed cooking OKONOMIYAKI with university students Saturday recreation(21st January 2017)

拠点はここ（おさん）です。月1回土曜日にレクレーションをやっていますが、平日の月・水・金は夕方に学習支援をやっています。土曜日は、今回は20人ぐらい集まって、大学生と一緒に好み焼きをつくりました。これもソーシャルスキルの向上につながるわけです。

ということで、こういった活動をやっている最中で、まだ結果がどうのという段階ではないため、まさに関係づくりをして、ストラクチャーを回していくことに力を入れてやっていると状況です。

次に、濱田さんをお願いします。

「子どもの力を育む居場所づくりに向けた取り組み」
～手をつなぎ地域と咲かそう ゆいの華～

濱田 静江 氏

(社会福祉法人たすけあい ゆい理事長)

「社会福祉法人 たすけあいゆい」とは

1990年(平成2年)主婦9人が、誰もが地域で暮らし続けられるために出来ることをしたい(特に高齢者、障がい児・者のために)という思いから始まりました。

【略歴】

1991年「たすけあいグループ結」発足

1999年「NPO法人 たすけあい ゆい」

2003年「社会福祉法人 たすけあいゆい」

【実施事業】

高齢者デイサービス、訪問介護、居宅介護支援、訪問看護、児童発達支援・放課後等デイサービス、ケアプラザ、母子生活支援施設療養通所介護、グループホーム、就労継続支援B型、こども家庭支援センター、コミュニティーサロン、相談支援センター

【従業員数】

約233名(常勤71名、パート職員162名)

塚本先生ありがとうございます。

たすけあいゆいの濱田と申します。どうぞよろしく願いいたします。南区の南吉田町というところでささやかな試みをさせていただいていることを発表させていただきます。

・「社会福祉法人 たすけあいゆい」とは

まず「たすけあいゆい」のご紹介をさせてください。こんな形でたくさんの地域密着型の事業をさせていただいています。従業員は233名ほどおります。

・子どもの力を育む居場所づくりに向けた取り組み

子どもの力を育む居場所づくりに向けた取り組み



コミュニティサロン おさん

所在地：横浜市南区南吉田町2-17
(お三の宮商店街の一画)

開館時間：月～金 午前10時～午後8時

地域のみなさんが気軽に立ち寄れる居場所として、平成27年12月1日から社会福祉法人たすけあいゆいが運営しています。

「おさん」です。住所と、開業時間と、どんなことをやっているかということと、外からの写真です。看板などについては、地域の方々が、こうやったほうがいいのではないか、ああやったほうがいいのせはないか、と言われたとおりにつくらせていただきました

・コミュニティサロンおさんの取り組み

おさん食堂、おさん・ひなた塾。それから、コミュニケーションを使いながら買い物をするために、10円だけ持ってくれば駄菓子が買えるということなどもやっています。障害者の作業所がたくさんありますので、「小箱ショップ」もしております。それから、地域交流のお楽しみ会をやっています。これらのことをやって、いまは、土曜日子どもたちは学校がすごく忙しいというのがわかったのですが、その合間を縫って地域交流の行事の組み立てをさせていただいています。また、メダカの飼育などもさせていただいています。

・おさん食堂 昼間の様子

これが昼間の様子です。朝の10時半ぐらいに来て、お風呂がないので、お風呂だけ家に帰って入ってきて、またここに「ただいま」と戻ってくるご高齢の方がたくさんいらっしゃいます。



・おさん食堂 夜の様子

これは夜の風景です。夜になると、なるべくオレンジ色っぽい、明るいだけでも暖かい雰囲気ので灯りがともるようにさせていただいています。それと、夜になると夕飯を食べに来てくださるご高齢の方や、子育て最中のお母さんたちもたくさんいらっしゃいます。



・おさん食堂のメニュー

これは、ある日のご飯の提供のメニューです。セカンドハーベストですとか、私どもの社会福祉法人は、児童福祉施設も持っておりますので、一部の企業から食材の提供をたくさん受けていますので、ここでも一緒に使わせていただいています。

おさん食堂のメニュー



日替わり定食です。
人気メニューは
お魚やカレーです。



食材の一部は、寄付食材を活用
しています。

コミュニティーサロンおさんの様子

これは駄菓子屋です。きのうも塚本先生と皆さんが見学に来てくださったときに、子どもたちが7、8人いたと思うのですが、その子たちが10円持ってきて、あの辺の駄菓子を、うちのスタッフと丁々発止で、「ただいま」とか、「100円持ってきたから、きょうは10個買えるね」とか言いながら、楽しみながら、コミュニケーションのスキルを上げるためにも、駄菓子屋はとてもよかったなと思っています。大変売れゆきがようございます。

コミュニティーサロンおさんの様子

○駄菓子屋おさん



○小箱ショップ



これは外から見る「小箱ショップ」ですが、知的障害の作業所、精神の作業所、それから難病と闘っている方たちが作品を発表する場にもしてほしいという願いがありましたの

で、そんな「小箱ショップ」をたくさんさせていただいています。

・コミュニティーサロンおさん事業内容

①おさん食堂

おさん食堂の簡単なルールを説明します。昼食と夕食を 350 円で地域の方に提供させていただいています。小学生以上のお子さんは登録が必要です。それは、ひなた塾に登録してほしいからです。中学生未満のお子さんは 100 円だけちょうどいしています。

営業時間は、昼食は 11 時半から 1 時半まで。夕食は 5 時から 7 時半までとなっています。そのかわり、お子さんの夕食は 4 時半から 7 時半までとなっています。

②おさん・ひなた塾

②おさん・ひなた塾

- 実施日時：月・水・金 週3日 16時～19時
- 対象者：近隣の小・中学生
- 内容：宿題の支援
- 特徴：登録制・食事提供



学校の宿題を
一生懸命やって
います！

おさんのひなた塾では、基本的には宿題を持ってきて、「その日のうちに宿題は済ませてしまおうよ」という生活リズムを刻むことも大切にしています。

うちのスタッフと学生のボランティアさんです。たまたまこの2人は女の子だったのですが、何カ月かやってみて、よくわかったことがあります。

ひなた塾に登録しているご家庭の特徴がいくつかわかってきました。両親が夜遅くなるまで共働きをされていて帰ってこない。家庭内の親子関係にかなり課題を抱えている。外国につながる子どもが、すぐそばの

小学校は 50%を超えようとしているのですが、日本独特の仮名づかいですとか、ことわざですとか、漢字ですとか、言葉づかい、それから、これが一番問題だと思うのですけれども、

おさん・ひなた塾の様子



習慣などを習得しにくい家庭環境にあるということがわかってきました。

日々の子どもの言動から拾ってきたものですが、子どもの特徴としては、学習支援ボランティアの、きょうも会場に来られた学生の方たちが、温かくて心地よい健康的な支援をしてくださっているのも、その人たちが大好きだということです。このように、信頼をしているということ。簡単に関係をうまくつくってくださったことに心から感謝申し上げます。

また、指導すればするほど、素直に聞き入れて改善しようと努力する素直な子どもたちなのだということが、よくわかりました。また、塾に来て勉強するのが楽しいと思ってくれているということもわかりました。お友だちと誘い合っているわけではないのですが、そこで出会ったお友だちをととても大切な存在だと思って、良い関係性を築いているので、学校の中でもきっと良い関係が築けているのだろうなとうかがわれました。

一番うれしかったことは、自分が通える塾があるということ。それも家の近くにあって、そこへ行くと自分の考えを聞いてくれて、その通りサポートしてくれることが、実感として良い学習意欲につながっているなということがわかってきたことです。

こんな短期間のうちに、子どもたちは言葉を使って雄弁に語るのだなということに驚いています。人と人との良い関係以外に社会福祉事業は、継続することは難しいと、二十数年ずっと思い続けてきましたが、子どもの支援も、原点に戻るべきだということを痛感しております。子どもたちからたくさん学ばせていただいています。

おさん・ひなた塾

①登録申込：保護者と面談し、主旨を理解して頂き
登録用紙、利用同意書に記入の上申し込む。

②利用開始：月・水・金の週2日以上通うことを目標に
宿題や基礎学習、音読等の支援を開始。

支援スタッフ：常勤1名（兼務）
大学生ボランティア（登録制）
（株）公共経営・社会戦略研究所研究員
（必要に応じサポート）

ひなた塾の少しのルールを説明します。

保護者と連携して登録をお願いしています。それは、保護者が自分の子どもがどういうふうにしたいかということ、まず親子で話し合っていたいただきたいので、親も承知して登録をさせていただくことにしています。「うちの子は、きょうどこに行っているのかしら」とい

うのは困るわけです。

利用は、月曜日・水曜日・金曜日の週2日以上通うこと。やることは、宿題や基礎学習です。中学生のお子さんは、小学校3年生でつまずいています。小数点がわからないというところからなので、中学3年生になりましたが、小学校3年生の教材からもう一度戻りながら勉強させていただいています。

支援のスタッフは、大学生のボランティアが14名になりました。評価ですとかいろいろなことは、塚本先生のところの会社をお願いをしています。常勤のスタッフが1名常駐しています。

・おさん・ひなた塾 お楽しみ会の様子

大岡川の両側に、日本の3大名所といわれている桜の並木があるのですが、その桜が咲く前の3月に学生さんたちが、うちの地域の子もたちと一緒に「桜の花を壁面飾りで満開にしようよ」と言ってつくってくれたものです。

これは、大学生のボランティアさんと一緒に、お好み焼きをつくって食べています。

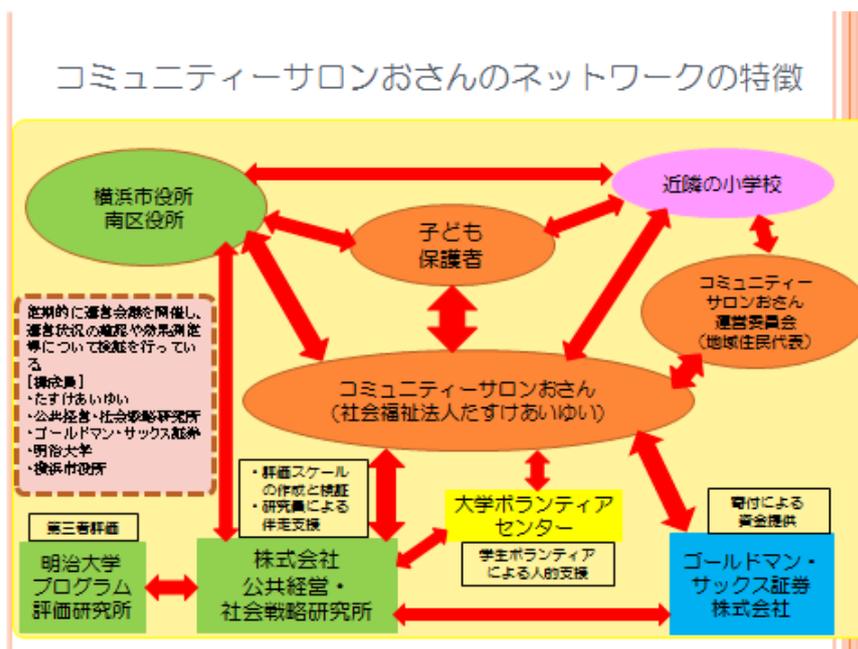
家庭で自分たちの食べたいものを、食べたいときにつくるという経験が非常に乏しいということを実感させられています。とても楽しそうにつくっていて、それから、たくさん食べたことが本当にうれしかったです。

おさん・ひなた塾 お楽しみ会の様子



大学生のボランティアさんと一緒に桜の花を折り紙で作って、おさんの壁に満開の桜が咲きました。そして、花見団子をつくってみんなで食べました。

・コミュニティーサロンおさんのネットワークの特徴



どういふうに全ての人たちが私どもに関わってくれているかという図を作りました。たくさんの人たちの中で、これだけのことをさせていただいております。本当に心より感謝申し上げます。

・コミュニティーサロンおさんが大切にしていること、めざすもの

私たちの目指しているものです。

- ・子どもの力を信じて見守り、待つこと。
- ・子どもたちの描く未来を応援すること。
- ・子どもの未来が子ども自身で切り拓かれるよう子どもの生きる力を育む取り組みを継続すること。
- ・子どもの変化がどのように社会に良い影響を及ぼすのかを検証し、実証していくこと。

大人たちが本気になって子どもたちの事を考えること。考えた事を実践できる場としてあり続けること。

このプロジェクトは1年半で終わりますが、地域の方々や全ての子どもに関わる方々と一緒に、ずっとこの場を継続していけたらと思います。

様々な形で、子どもたちを見守り、応援してくださっている方々に、最後にひとこと、心より感謝申し上げます。これからも、どうぞ応援をさせていただきますよう、よろしく願い申し上げます。 本当に、本日はありがとうございます。

司会：ありがとうございます。塚本先生と濱田様に、もう一度大きな拍手をお願いいたします。（拍手）

このあとはパネルディスカッションへと移らせていただきます。準備をいたしますので、いましばらくお待ちくださいませ。準備が整い次第始めてまいります。